

にぎわいと 長崎らしい 風景のある まちへ

長崎駅周辺エリア デザイン指針



平成 27 年 3 月
長崎市・長崎県

はじめに

長崎は、近世より世界に開かれた港湾都市であり、多様な人・文化の交流を育む母胎としてその姿が形作られてきました。交流なくして長崎はありません。現在も市街地のいたるところに、そして生活文化に、刻み込まれた交流の歴史を見ることができます。もちろん、現代では全国各地で交流施策がとられ、それ自体は珍しいものではなくなってきました。しかし、長崎ほど交流の歴史が積層するまちもありません。長崎にとって外部との交流を保つことは、長崎らしさを持続するための方策としても、現代の長崎が抱える人口減少・少子高齢化といった課題への対応策としても、欠くことのできない重要な都市戦略であると言えます。

長崎が交流都市であり続けるためには、何が必要でしょうか。それは「ここにしかない価値」です。情報通信技術とその基盤が発達した現在、その重要性はさらに増しています。この場所に立ち、五感で長崎を感じることを通してのみ獲得できる価値をいかにつくるか。そのために必要な戦略が、都市空間のデザインです。長崎では、2000年より「環長崎港地域アーバンデザイン会議」を継続的に開催し、水辺の森公園や常盤・出島地区橋梁群、長崎県美術館、出島ハーバーなど臨海部で重要な施設・公共空間のデザイン調整に精力的に取り組み、成果を収めてきています。

これら一連の試みの延長線上に、長崎駅周辺エリアが位置づけられます。長崎駅周辺エリアは、新しく建設される新幹線や在来線の高架化などを通じて、大きく姿を変えようとしています。これは長崎の歴史においても大きな節目となる時期と言えます。このときに、長崎の玄関口である長崎駅周辺エリアをどこにでもあるようなまちにするわけにはいきません。長崎だからこそ体験できる空間を追求し、実現し、次の世代につなげることが、現代の長崎に生きるわたしたちの使命であると考えます。

そのためには、新しく建設される駅舎をはじめとする多くの建築物と駅前広場や街路などの基盤施設の計画・設計を十分に吟味・調整し、長崎の文化・風土に根ざした空間をつくること、また果たすべき現代的な機能を確保し、目指すべき景観と調和させることを実現することが必要です。

この「長崎駅周辺エリア デザイン指針」は、そのために長崎駅周辺エリアの関係者である行政・事業者・市民で共有するデザインのガイドラインとして、景観づくりに関する専門家と主要な事業者をメンバーとする会議「長崎駅周辺エリア デザイン調整会議」において検討されたものです。このデザイン指針に描かれた目指すべき空間像と、そのためのデザインの心得・作法に基づき、関係者が一体となって未来に誇れる新しい長崎の玄関口をともに創り出していくことを期待します。

もくじ

第1章 長崎駅周辺エリア デザイン指針とは

1. 位置づけと目的	4
2. 対象範囲	4
3. 使い方	5
4. 行政・事業者・市民それぞれの役割	6

第2章 私たちの目指す空間デザインとは

1. 空間デザインの目標と基本方針	7
2. 空間デザインの心得	10
(1) 港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう	10
(2) 歩くことが楽しくなるまちにしよう	12
(3) 眺めを楽しめるまちでいよう	14
(4) 長崎情緒が感じられるまちをつくろう	16
(5) 活動で長崎らしさを演出しよう	18
3. 空間デザインのイメージ	20
(1) 立山周辺からの長崎駅周辺エリアのイメージ	20
(2) 駅前商店街周辺からの駅東側のイメージ	21
(3) 新幹線ホームから駅東側のイメージ	22
(4) 西口駅前広場からの 長崎駅西通り線北側のイメージ	23

(5) 港側からの駅南側のイメージ	24
(6) 新幹線ホームからの長崎港を見たイメージ	25

第3章 デザインの作法集

1. 作法集の見方	26
2. 鉄道関連施設のデザイン作法	26
3. 駅前交通広場等のデザイン作法	30
4. 建物のボリュームと構成のデザイン作法	34
5. 歩行空間と建物低層部のデザイン作法	35
6. 建築設備・工作物のデザイン作法	39
7. 屋外広告物等のデザイン作法	40
8. 仮設建築物・工事仮囲い等のデザイン作法	41